

CASBEE-建築(新築)2016年版
福ビル街区建替プロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階		評価点		重み係数		全体	
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質									3.7
Q1 室内環境			0.39						3.6
1 音環境		4.2	0.15	3.7	1.00				4.1
1.1 室内騒音レベル	建物全体・共用部分:NC値45以下、住居・宿泊部分:NC値30	4.0	0.40	4.0	0.40				
1.2 遮音		5.0	0.40	3.8	0.40				
1 開口部遮音性能	建具の遮音等級 T-2	5.0	0.74	5.0	0.30				
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能/Dr Dr-50	5.0	0.26	5.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	1.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音	住居・宿泊部分:壁・床に吸音材を使用	3.0	0.20	3.0	0.20				
2 温熱環境		3.1	0.35	2.9	1.00				3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	4.1	0.50				
1 室温	住居・宿泊部分:夏季・冬季 24°C	3.0	0.41	5.0	0.57				
2 外皮性能		3.0	0.22	3.0	0.43				
3 ゾーン別制御性	AHU・FCU 4管式	4.0	0.36	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式		3.0	0.30	1.0	0.30				
3 光・視環境		3.3	0.25	3.9	1.00				3.3
3.1 昼光利用		2.5	0.38	4.2	0.30				
1 昼光率	昼光率=2.2%	2.0	0.41	5.0	0.60				
2 方位別開口		-	-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.59	3.0	0.40				
3.2 グレア対策		5.0	0.20	5.0	0.30				
1 昼光制御	電動ブラインド設置	5.0	1.00	5.0	1.00				
3.3 照度	建物全体・共用部分:事務所600Lx	4.0	0.10	3.0	0.15				
3.4 照明制御	事務所、集会場、ホテル用途:照度センサーによる自動調光	3.0	0.31	3.0	0.25				
4 空気質環境		4.3	0.25	3.8	1.00				4.3
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	対象部位の合計70%以上の面積にF☆☆☆☆を採用。	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気		4.6	0.30	3.6	0.38				
1 換気量	換気量:30m ³ /h・人	4.0	0.39	4.0	0.33				
2 自然換気性能	事務所用途:ダブルスキンファサードによる自然換気(手動)	5.0	0.21	4.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	汚染のないほうに設けられ、給気口は各種排気口と6m以上	5.0	0.39	3.0	0.33				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 監視が中央で常時行えるシステム、管理マニュアル等が整備	5.0	0.47	-	-				
2 喫煙の制御	喫煙室負圧および差圧センサー設置	5.0	0.53	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				4.1
1 機能性		4.2	0.40	3.0	1.00				4.2
1.1 機能性・使いやすさ		4.3	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性		3.0	0.21	3.0	0.50				
2 高度情報通信設備対応	コンセント容量60VA、2.5坪に1台の通信回線、複数の通信業者	4.0	0.21	3.0	0.50				
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑誘導化基準を満たしている。	5.0	0.59	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.7	0.30	3.0	0.40				
1 広さ感・景観		3.0	0.32	1.0	0.50				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.30	-	-				
3 内装計画	建物のコンセプトが明確化されている。	5.0	0.39	5.0	0.50				
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計(内装・外装計画)がなされている。	5.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	維持管理用機能を確保されている。	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		4.0	0.30	-	-				4.0
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	福岡市:地震地域係数0.8 * 1.25 (25%の耐震性)=1.0	4.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	制振装置を採用。(HiDAX-E)	4.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	カーテンウォール(PC板製):65年	5.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床・壁・天井にRC、ボード、床材を考慮(最低20年)	5.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		4.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	BCP計画において、災害時の対応が明確化されている。	5.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	過半以上にエコマーク認定品等の節水器具を採用している。	5.0	0.20	-	-				
3 電気設備	非常用発電機の計画、無停電装置の計画がある。	5.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	複数の引込みがあり、通信手段の多様化を図っている。	5.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			4.3	0.30	3.8	1.00	4.3
3.1 空間のゆとり			4.5	0.28	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	主要な階高:4m以上	5.0	0.59	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.05~0.17	4.0	0.41	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		事務用途:床4900N/m ² 、架構1800N/m ² 、地震800N/m ²	4.0	0.28	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			4.4	0.43	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	ユニット配管、システムトイレの採用がある。	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	建物全体としては、構造部材は痛める事なく修繕・更新ができる。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	建物全体としては、構造部材は痛める事なく修繕・更新ができる。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	主要設備機器更新に対応したルートが確保されている。	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	設備機器のバックアップスペースの計画はある。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		建物緑化指数:21.42	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	広場や歩道状空地のスペースを確保し、憩いの場に供する	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地内へ風を導く建築物の配置・形状計画である。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.88	4.2	0.18	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用		環境配慮計画として、ダブルスキンを使用	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.82	2.9	0.51	-	-	2.9
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	中央監視等によりエネルギー消費量の計測がされている。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			4.1	0.20	-	-	4.1
1.1 節水		総器具数の過半以上に節水コマの他、省水型機器を採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.3	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システムある。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水再利用システムある。	5.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1	材料使用量の削減	主要構造部のうち、S造部分(大梁・柱等)にF325以上の鋼材を使用	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高戸セメントB種、C種を使用	5.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ソーラトンなどを使用	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	乾式壁工法(LGS)により、躯体と仕上材を容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法の対象物質を含有しない建材種別が3つ以上ある	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.6	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用している。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡系断熱材は、すべてODP=0(ノンフロン)、GWP<50である。	4.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		低NOx型小規模燃焼機器の推奨ガイドラインの基準値の90%以下	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水流出抑制対策(雨水ビットの設置)を自主的に計画している。	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	附置義務台数を満たす自転車置き場を設置している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量の推計を行う。	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	